

ロタウイルスワクチンの定期接種化にむけて



はじめに～予防接種ってなに？～

予防接種とは、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。病気にかかることを予防したり、人に感染させてしまうことで社会に病気がまん延してしまうのを防ぐことを主な目的としているものです。

予防接種には、法律に基づいて市区町村が主体となって実施する「定期接種」と、希望者が各自で受ける「任意接種」があります。

ロタウイルス感染症とは？

ロタウイルスによって引き起こされる、急性胃腸炎です。嘔吐や下痢、発熱などを主な症状とし、時に脱水やけいれん、肝機能異常や腎不全、脳症などを合併します。年齢にかかわらず何度でも感染しますが、症状は初めて感染した時が最も重症です。特に重症化しやすいのは、生後4か月～23か月の乳幼児で、日本における5歳未満の急性胃腸炎の入院の4～5割程度が、ロタウイルス由来とされています。

成人にも感染しますが、軽症ですんだり発症しなかったりする場合が多いようです。治ったあとの免疫は不完全で、再び感染することもあります。通常二度目は重症にはなりません。

ロタウイルスの感染経路は？

主にヒトとヒトの間で、ロタウイルスが口から入ることで感染します。ロタウイルスは、ロタウイルスによる胃腸炎の患者の便に大量に含まれています。患者の便を処理した後、たとえ十分に手洗いをしても、手や爪に数億個ものウイルスが残っていることがあり、ロタウイルスが付いた手などから感染が広がっていきます。

定期接種化はいつから？誰に？

令和2年10月から定期予防接種化され、令和2年8月以降に生まれた子どもが対象となります。ワクチンには2種類あり、2回接種するものと、3回接種するものがあります。どちらも、口から飲むタイプのワクチンです。

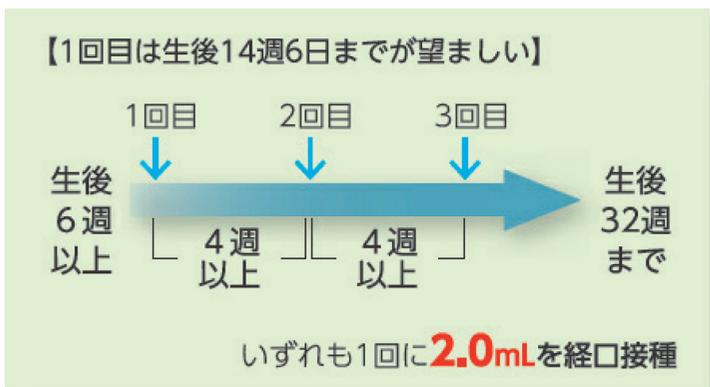
2回接種のものは、生後6週～24週まで、3回接種のものは、生後6週～32週が定期接種の対象期間となります。(図1)

図1 ロタウイルスワクチンの接種回数、接種間隔等

○2回接種の場合



○3回接種の場合



参考(引用)：国立感染症研究所ホームページ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html>

また、いずれのワクチンも、初回接種は生後14週6日までに行うことが推奨されており、原則として、同一のワクチンで接種を完了します。

なお、既に一部の接種を任意接種で受けている場合は、残りの接種を定期接種として取り扱うこととなります。

ロタウイルスワクチンの副作用は？

ロタウイルスワクチンの主な副作用は、ぐずりや不機嫌、下痢、嘔吐、せき、鼻水、発熱などで、重篤なものでは、アナフィラキシーや腸重積症があります。腸重積症とは、小腸の末端部が大腸に入り込み、重なってしまう病気です。接種後、特に初回接種の1週間以内に、腸重積症状(ぐったりする、顔色が悪い、繰り返し起きる嘔吐、不機嫌、血便、お腹の張り)が見られた場合には、速やかに診察を受けるようにしてください。

おわりに

最近、新型コロナウイルス感染への不安から、こどもの定期予防接種を控えている方が多くいると言われています。

ロタウイルスワクチンに限らず、予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。

特に、生後2か月から予防接種を受け始めることは、お母さんからもらった免疫が減っていくときに、かかりやすい感染症から赤ちゃんを守るために、とても大切です。

お子さまの健康が気になるときだからこそ、予防接種は遅らせずに、予定どおり受けましょう。

(相模原市 健康福祉局 保健衛生部 疾病対策課 ☎042-769-8346)

現在のメディカルセンター急病診療所における感染予防対策について

一般社団法人 相模原市医師会 急病対策委員会

新型コロナウイルス感染症が再び流行しており終息の兆しは今のところ見えていません。

相模原市医師会では市民の皆さまが安心してメディカルセンターを受診していただけるように下記の対策に取り組んでいます。

1. 各メディカルセンター(西メディカルセンターを除く)においては受付前にスタッフを配置し、検温・問診を行うことで発熱患者と非発熱患者のトリアージを実施。発熱患者については専用待合スペースへ誘導しています。
2. 建物の構造上、発熱患者と非発熱患者の動線を完全に分離することはできませんが、可能な限り待合スペースや診察室を分けるなどの対策を行っています。
3. 院内においてはできる限りソーシャルディスタンスを取っていただくようお願いをしています。
4. 院内における感染予防対策の一環として、受付に飛沫感染防止スクリーンの設置、スタッフのマスク着用、換気・消毒により院内の衛生の維持に努めています。

今後も状況に応じてできる限りの感染予防対策を講じ、より安全な診療を目指してまいりますので、メディカルセンターを受診される皆さまにおかれましてはご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

